

報道関係各位

サンケイビル 『西梅田プロジェクト』 開発コンセプトは“ ACTIVE/RELAX ”

株式会社サンケイビル（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：中本 逸郎）では、大阪市北区の大規模再開発計画「サンケイビル 西梅田プロジェクト」＝2008年竣工＝におきまして、“ACTIVE/RELAX”（アクティブ・リラックス）を開発コンセプトに開発事業を推進いたします。

“ACTIVE/RELAX”とは、“ACTIVE”と“RELAX”という一見相反する二つの概念を両立させる、二律共存の新しい価値を表現しています。近年、“自然体志向”と“上昇志向”の両方を求める、「LOHAS（ロハス:Lifestyle Of Health And Sustainability）」と呼ばれるライフスタイルが注目されています。同プロジェクトでは、こうした“ロハス”な価値観を持った人々を中心に、活動的、機能的でありながらも、心地良いビジネスシーンや都市生活を提供していきます。「オフィス」「商業施設」「劇場ホール」をあわせ持った同プロジェクトによって、西梅田の活性化を目指すとともに、ワーカーや来訪者たちには、日々新しい「刺激」と深い「リラックス」を体験していただきます。このビルはワンランク上の生活を実現するための活動の拠点であり、同時に自分らしさを取り戻すやすらぎの空間です。

弊社では、2008年の竣工に向けて、“ACTIVE/RELAX”をコンセプトワードとしながら各種コミュニケーション活動を積極的に展開してまいります。



本件に関するお問合せ先
株式会社サンケイビル 広報室 中島・松井
TEL.03-3212-6800 FAX.03-3212-8277

サンケイビル「西梅田プロジェクト」ポイント

デザイナー・アーキテクト

“ACTIVE/RELAX”空間の創造に向けて、デザイナー・アーキテクトには、ドイツ国内を始め、ヨーロッパ各国において数々の著名なオフィスビルや商業施設を手がけるドイツ人のインゲンホーフ氏を起用しました。同氏は、環境立国のドイツにあって、ひときわ高い環境意識、人間の視座からの建築哲学で知られています。同氏の設計の特長は、ガラスを内外壁に多用し、外の環境を最大限に取り込むところにあります。彼の目指す、省エネルギーで環境負荷が少ないだけでなく、そこに働く人のココロとカラダに優しい設計スタイルが、同プロジェクトが掲げる意志と共鳴したことにより、インゲンホーフ氏を起用いたしました。同プロジェクトでは、超高層でありながら、フロアには外気が自由に取り込み、さらに自然の採光ができる構造として、その思想は活かされています。

また、今回、照明デザインを、東京タワー、レインボーブリッジ、大阪城天守閣のライトアップなどを手掛けた照明デザイナー 石井幹子氏に依頼しています。インゲンホーフ氏の日本でのデビュー作が、石井氏の光の芸術とのコラボレーションによって、新たな西梅田のランドマークとして大きな話題を集めるものと確信しています。



©Ingenhoven Architects

クリストフ・インゲンホーフ氏プロフィール

1960年ドイツ、デュッセルドルフ生まれ。アーヘン工科大学および、デュッセルドルフ・アート・アカデミーで建築を学ぶ。アカデミーではオーストリアの建築家ハンス・ホラインに師事。1984年にウォルフガング・デーリング教授から学位を授かり、その翌年、地元、デュッセルドルフに「インゲンホーフ・アーキテクト」を設立。国内のコンペや国際設計競技で数多くの賞を受賞し、これまでに25以上に及ぶ1位を獲得している。

<主な作品>

- ・コメルツ銀行（1991年）
- ・シュトゥットガルト中央駅（2007～2013年）
- ・デュッセルドルフ市貯蓄銀行本社屋（1998～2000年）
- ・ルフトハンザ航空新社屋（2003～2006年）

オフィスゾーン

オフィスゾーンは、10階から32階までの高層部23フロアーに位置し、オフィス面積は約9,000坪になります。オフィスワーカーにとって、長時間を過ごす場所だからこそ、快適で心地良い環境が大切であると考え、高い透明感とやわらかな光に包まれた空間、さらに外気を直接採り入れる窓の構造など、働く人の快適性を追及しつつ太陽光など自然エネルギーを活かし、環境負荷の軽減にも配慮した、企業や個人が高い生産性や創造性を発揮できる空間です。

商業ゾーン

同エリアは、地下接続によりオオサカ・ガーデンシティと直結し、JR大阪駅、地下鉄西梅田駅、阪神電鉄梅田駅とのアクセスが可能となることによって、南側に広がる大手企業を中心としたオフィスエリアからオオサカ・ガーデンシティへの南の玄関口として位置づけられます。同プロジェクトでは、本場の選択眼をもった大人のトレンドに応える商業施設を創出させる計画です。

1Fの吹き抜けのあるパサージュでは、ジャズライブやアートフェスティバルといった様々なイベントが行われ、いつも新しい感性に触れられる空間を創出します。

レストラン街は最上階の33階と5F&6Fのスリーフロアーで構成。ビジネスワーカーに対しては、ランチョンミーティングや情報交換の場をアップサイドの店舗が提供します。

一方、物販エリアとなる2F、3F、4Fでは、高感度な大人のワードローブとなるファッション雑貨を中心とした展開を予定しています。

この他、B1Fにはワーカーにもゲストにとっても魅力的なデリカッテセンやドラッグストアなどを取り揃える予定です。

ホールゾーン

50余年にわたり、大阪で親しまれてきたサンケイホールの精神を受け継ぎながらも、新しい上方文化の発信地としてホールは生まれ変わります。

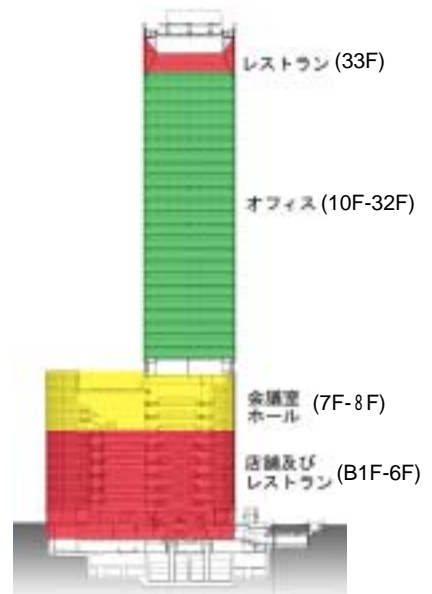
まず、新しいホールは、新しいコンテンツとカルチャーを生み出していきます。そして白を基調とした静謐な雰囲気のホテルが、訪れた観客を非日常の世界へと誘います。800席強のメインホールはアーティストと観客が一体となって非日常のアートシーンを味わえるよう、あらゆる工夫と配慮が尽くされています。また、このメインホールには小ホール&カンファレンスホールが併設され、メインホールでの催しものの余韻をそのまま持ち込んだパーティなどに活用できます。

サンケイビル「西梅田プロジェクト」概要

完成イメージ



フロア構成



サンケイビル「西梅田プロジェクト」エリアマップ

サンケイビル「西梅田プロジェクト」施工概要

建築概要

所在地	大阪市北区梅田 2-4-9
建築主	株式会社サンケイビル 株式会社島津商会
設計監理	株式会社三菱地所設計 インゲンホーフエン・アーキテツツ (デザインアーキテクト)
ホール設計協力	鹿島建設株式会社建築設計本部
照明デザイン	石井幹子
施工	鹿島建設株式会社
工期	2006年3月～2008年7月(予定)
地域地区	商業地域
用途	事務所、劇場、店舗、駐車場他
構造	地上：鉄骨造 地下：鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地上34階 地下3階 塔屋1階
敷地面積	5,291.89㎡
建築面積	3,606.76㎡
延床面積	84,741.70㎡
最高高さ	174.9m
基準階高	4.2m(天井高2.8m)
主要仕上	外部仕様 / アルミガラスカーテンウォール(ダブルスキン) プレキャストコンクリート版 内部仕様 / O Aフロア(H=100) タイルカーペット システム天井

ホール会議室概要

<大ホール>	
位置	7階～8階
主な催事	演劇、日本舞踊、クラシック、オペラ、音楽コンサート他
床面積	約1,610㎡
座席数	約800席超
主要諸室	ホワイエ、ロビー、クローク、バー
<小ホール> 大ホールに隣接	
床面積・高さ	約335㎡ / 天井高約6m
主要設備	控室、電動昇降ステージ、高感度プロジェクター他
<会議室> 大ホールに隣接	
部屋数	全5部屋
床面積	58㎡から119㎡(30～100名対応)
主要設備	高感度プロジェクター他

設備概要

[電気設備]	
照明設備	: 昼光利用・初期照度補正による自動調光制御を採用(オフィスゾーン)
電話設備	: 通信キャリア数社引込み可能、光ケーブル先行配線
防犯設備	: 非接触式カードリーダーによる管理システムを導入(オフィスゾーン) エントランスホール、通用口、地下駐車場等に CCTV を設置し、映像により監視
発電機設備	: 非常用ガスタービン発電機×1台 テナント用発電機設置スペースを確保

[衛生設備]

給水設備	: 重力給水方式(高層系統)と加圧送水方式(低層系統)の採用
中水設備	: 雨水、雑排水の再利用 (処理後、館内一部の便所洗浄水、植栽自動灌水として利用)

[空調設備]

熱源設備	: ガス・電気のベストミックス熱源システムの採用
水蓄熱システム	による電力の平準化
バックアップ機能	に配慮した熱源計画による信頼性の向上
大温度送及び変流量システム	による水搬送動力の削減

空調設備	: ダブルスキン、Low-E ガラスによる快適性向上と日射熱の低減
自然換気可能ファサード	と VAV との連携による自然換気システム
変風量(VAV)システム	による空調機搬送動力の削減
中間期及び冬期の外気冷房システム	による省エネルギーの達成

[テナント対応]

各階テナント4分割対応	(空調、電気、通信、給排水が各々4分割に対応)
テナント要望に応じた冷房能力増強	に備えた予備冷水対応